



# わが社の経営戦略

## 信越理研株式会社

(長野県鍍金工業組合・組合員)

Vol.2

国内外ほとんどの自動車メーカーのめっき部門を担う  
金属表面処理（めっき）の専門企業。  
地域との共生と「健康経営」で厚い信頼を築く。



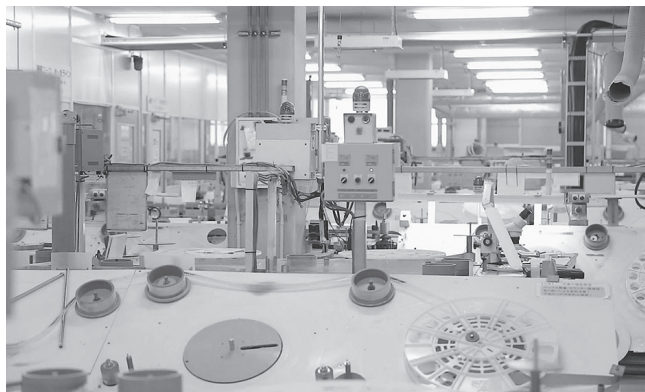
### 全世界の自動車に搭載

信越理研は金属表面処理（めっき）専門企業として1958（昭和33）年、長野市七瀬で創業。電機・電子関連部品からブレーキ、エンジンピストンなどの自動車部品に拡大し、現在は電装部品を中心に売上げの約85%を自動車関連で占めています。

「手がける自動車部品は、国内は全メーカー、海外も米ビッグスリー、テスラから、韓国、中国、ヨーロッパまでほとんどのメーカー車に搭載されています」。そう話す服部俊直社長は長野県鍍金工業組合理事長も務めています。

服部社長は東北大学工学部卒業後、東京の大手情報会社を経て、1989（平成元）年同社に入社。1996（平成8）年には現工場への移転という大仕事も。「機械設備の設計から最新鋭のライン構築まですべて手がけました。既存工場を稼働させながらの移転で苦労しましたが、とても良い経験でした」。

自動車用電装品で世界トップクラスの顧客のニーズに応え信頼を得るなど、新工場効果は大きく、業績は順調に拡大。入社当時から社員は6倍、売上げは20倍に成長し、2021（令和3）年度売上高は46億2,000万円と過去最高を達成しました。



### 顧客の依頼にノーと言わない

その原動力はもちろん、技術力の高さです。他社では困難な厚さから極薄まで多様なめっき処理が可能で、特殊なめっきにも対応。EV充電部品に欠かせない超硬質銀メッキでは世界トップクラスの供給量を誇ります。また、必要な部分のみにめっきを施す新たな技術開発にも積極的に取り組んでいます。

力を入れるのが、問題発生時の解析力を高め、規格を管理・保証できる体制づくり。めっき工程で発生し、

システムエラーなどのトラブルを引き起こすリスク対策にもいち早く対応しています。

「先代社長（父）の方針が、顧客の依頼にノーと言わないこと。自分たちで問題を解決し、提案もしてきました。生産設備がほとんど自社製なものそのためです」。

納期遵守率は99.7%。それもメーカーからの絶大な信頼につながっています。



### 地域と共生し安心して働ける会社

一方、同社にとっての永遠のテーマは、地域と共生する企業としての環境保全対策と、社員が安心して働ける会社づくりです。

21年に長野県のSDGs推進企業に登録。「CO<sub>2</sub>排出生産原単位の削減」「女性管理職比率の引き上げ」「労働生産性向上による時間外労働の削減・社員の健康増進・地球環境保全の実現」に取り組んでいます。特に「健康経営」を目指した取り組みが高く評価され、従業員の健康管理に取り組む法人を選ぶ経済産業省の「健康経営優良法人2022」にも認定されました。

毎年10名近くの新規採用では「地元から入社を希望する人が増えており、ありがたい」と服部社長。ここにも同社の地域における信頼度の高さがうかがえます。



服部俊直社長

代表取締役社長 服部俊直  
昭和33（1958）年7月  
資本金 1,750万円  
従業員数 124名（男95名、女29名）  
本社 長野市若穂川田3800-10

TEL.026-282-5282 FAX.026-282-6722  
<https://shinetsu-riken.co.jp>

事業内容 電子部品、機械部品、自動車部品等、多彩な金属素材の表面処理（めっき処理）

